

資料 1

各部会説明資料

部会名	令和 7 年度健康くまもと 21 推進会議 食の安全安心・食育部会		
開催日時	令和7年9月3日(木) 14:00~16:00	場所	ウエルパルクまもと3階すこやかホール (庁内推進委員は Teams オンライン参加)
出席委員 (五十音順・敬称略)	石橋素子、國徳健二、河野由美、榮田修治、永田智恵子、長濱一弘、藤高ちよ、村田礼子、三浦勲、守田真里子、山田浩一、吉田精華、和田史郎(13 名)		
議題1	第 4 次熊本市食の安全安心・食育推進計画 「食の安全安心の確保」の進捗状況について		審 議 : 済
	主な質疑 応答	<p>【質疑】 半年間で 81 の食品関連事業者が「熊本市 HACCP で守る食の安全宣言事業」に申請しているが、どのように申請について周知されているのか。この取り組みを行っている店舗がわかるようにすると、市民への周知が広まるのではないかと。学校給食も HACCP に取り組まれているので、宣伝してはどうか。</p> <p>【応答】 11 月から開始し、市長の記者会見や市政だよりなどで広報した。また、営業許可の申請の際に、食の安全安心宣言の申込を促した。今後、給食での立入検査や販売業の方々にも、案内してまいりたい。</p>	
議題2-1	第 4 次熊本市食の安全安心・食育推進計画 「食育の推進」の進捗状況について		審 議 : 済
	主な質疑 応答	<p>【質疑1】 地域包括支援センターは、熊本市内に 27 箇所あり、高齢者支援、住民の方の健康増進及び福祉について取り組んでいる。短期集中予防サービス(栄養改善プログラム)を行っているが、3 か月のプログラム終了後のフォローについても課題となっている。事務局からご意見あるか。</p> <p>【応答1】 高齢者の短期集中予防サービス終了後のフォローは、市としても重要な取組であるため事業担当課にも伝える。</p> <p>【質疑2】 検証指標である「熊本市こどもの食育推進ネットワークにおける連携活動した団体等の割合」の実績値が低下した。園と団体をつなぐことが重要であり、連携できるよう今後も検討いただきたい。相談窓口はどこか。</p> <p>【応答2】 健康づくり推進課及び区役所保健こども課が相談窓口であり、連携活動が増えるよう検討してまいる。</p>	

議題 2-2	第 4 次熊本市食の安全安心・食育推進計画 「食育の推進」の令和 7 年度新規事業について		審 議 : 済
	主な質疑 応答	【質疑】 新規事業「熊本市糖尿病重症化予防プログラム」は、熊本市国保被保険者対象のみか。 【応答】 今年度は熊本市国保被保険者対象。	
議題 3	第 4 次熊本市食の安全安心・食育推進計画 「食育の推進」の検証指標の変更について (別冊3 45ページ参照)		審 議 : 済
	主な質疑 応答	意見なし	

熊本市HACCPで守る食の安全宣言について

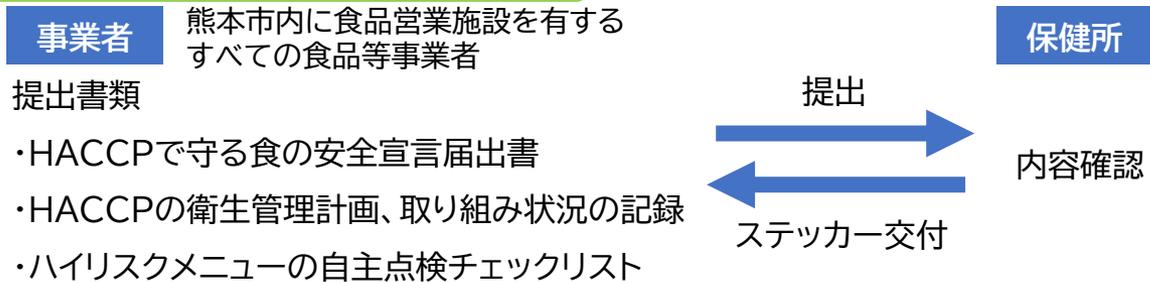
【食品保健課】

概要

HACCPに沿った衛生管理を積極的に実施している食品等事業者が「食の安全宣言」を行い、その事業者に対してステッカーを交付する事業。HACCPに取り組む飲食店等を明らかにすることで、市民が安心して飲食店等を選択できるようにするもの。また、市民によるHACCP取組への期待が、事業者の取組意欲の向上に結び付き、結果として市内飲食店等の衛生水準の向上につながる効果を期待している。



HACCPで守る食の安全宣言



食の安全宣言ステッカー(店頭掲示見本)

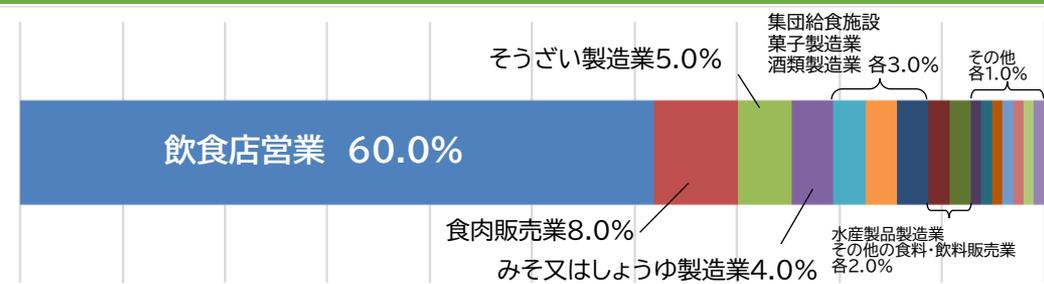


■ハイリスクメニューの自主点検

ハイリスクメニュー	リスク	管理方法
生食用魚類(刺身など)	アニサキスやクドアなどの寄生虫による食中毒	・原則、凍結処理(-18℃以下、24時間)を行う
焼鳥、ハンバーグ、ジビエなど	カンピロバクターや腸管出血性大腸菌、サルモ	・中心部温度が75℃、1分と同等以上の加熱
の肉料理、客が自ら焼く焼肉	ネラ等による食中毒	・客が自ら肉を焼く場合は十分な加熱と箸等の使い分けを説明する

届出実績数(令和7年9月末現在)

令和6年11月から事業開始し、届出数は100施設。業種は6割が「飲食店営業施設」、その次に「食肉販売業」と「そうざい製造業」、「みそ又はしょうゆ製造業」が続いている。



持続可能な食を支える食育推進事業 「いきなり団子プロジェクト」について

【健康づくり推進課】

概要

熊本市内の小中学生及びその保護者を対象に、郷土料理教室等を開催し、次世代を担うこども達へ熊本の食文化を伝承するとともに、こども達と地域ボランティアの世代間交流の場をつくる。
令和6年度からの新規事業で、熊本市食生活改善推進員協議会への委託事業。

令和6年度実施結果

(1)実施時期:令和6年8月～令和7年2月

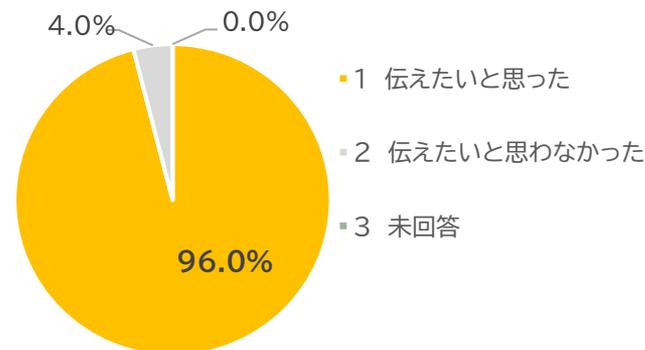
(2)実施内容

実施内容		実施回数	参加人数
料理教室	郷土料理の調理実習(いきなり団子+郷土料理1品 計2品)及び郷土料理に関する講話	20回	679人
イベント啓発	熊本の郷土料理の試食もしくは展示、啓発資料配付	8回	1,103人



(3)アンケート結果(一部抜粋)

料理教室のアンケートにて郷土料理教室で学んだ内容を身近な人に伝えたいと思った者の割合は96.0%となり、この事業が小中学生における食文化の継承に寄与していると考えられる。



令和7年度実施状況

令和6年度から料理教室を5回増やし、令和7年度は料理教室を25回で実施。(申込クラス数74)
またイベント啓発についても各区にて実施予定。 5

部会名	令和7年度 第1回 健康くまもと21推進会議 歯科保健部会		
開催日時	令和7年8月22日(金) 14:00~16:00	場所	市役所 10 階会議室(庁内推進委員は Teams オンライン参加)
出席委員 (五十音順・敬称略)	石橋素子、岩男慎治、佐藤成美、島田美樹子、田上敬祐、中山秀樹、藤高ちよ、古川直枝、巻章子、村田礼子、吉田精華、米村和広、渡辺猛士(13名)		
議事1	各団体及び行政の歯科保健に関する令和6年度の取組状況及び令和7年度の取組予定について		審議 : 済
	主な意見	各団体及び行政の歯科保健に関する令和6年度の取組状況及び令和7年度の取組予定について、各団体から補足を行った。 【意見1】 歯と口の健康週間事業期間における無料歯科健診について、市内の会員歯科医院であればどこでも受けてもらえるようにしているが、受診されたのは28人しかいなかった。今後は広報の方法を考えたい。	
議事2	各団体及び行政のアクションプランの進捗状況確認と評価について		審議 : 済
	主な質疑応答	令和6年度に策定したアクションプランについて、行政及び各団体が取り組んだことについて自己評価を行った。その中で主に以下のご質問やご意見があった。 【質疑1】 保育園連盟の園長会が年10回ほどあるので、今年度もフッ化物洗口の説明をお願いしたい。熊本市から洗口液を提供してもらえると聞いているが、どのような手続きになるのか。 【事務局】 年度末に次年度のフッ化物洗口について、保育幼稚園課を通して各施設へ周知を行っている。そこで参加するご意思を表明していただくと、物品の提供等を行う。 【意見1】 昨年度のこの部会において、咀嚼力が下がっていることも多いとの話が出たので、その改善に向けた資料を作成しているところである。 【意見2】 噛む力が大事なので企業と一緒に咀嚼ガムを使用してサークル等で啓発している。 【意見3】 「噛むこと」の重要性を保健計画に位置づけ、保健指導にも取り入れている。また、「いい歯の日」などに合わせて給食に噛むメニューを取り入れ、しっかり噛むことも伝え、こどもたちに少しずつ身につけていけるよう取り組んでいる。	

議事3①	こどものむし歯予防の推進に向けた協議（啓発リーフレットの改訂）について	審議：済
	主な意見	<p>こどものむし歯有病率は政令市ワーストを脱却したものの、更なるむし歯予防の啓発が必要である。そこで過去の歯科保健部会で作成した「歯っぴー39チャレンジリーフレット」の情報を更新するために協議を行ったところ、主に以下のご意見があった。</p> <p>【ご意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字は少ないほうが拒否感は減る ・表紙に「歯みがき」「フッ化物」とあったほうが目に留まるのではないだろうか ・言葉を少なくして伝わるのかと思う部分がある ・糖分の摂取回数などは小さいお子さんのむし歯予防のために大事な情報だと思う ・「かじりとる練習」というのは文字だけで想像できるか心配である ・「フッ化物塗布を受けることでかかりつけ歯科医をもつことにつなげる」というのが目標にあったのでこの重要性について追加してはどうか ・「フッ化物健口」のフレーズが一番前がよい など <p>※ご意見を反映(再度修正)し、別添のリーフレットを最終として市ホームページに公開した</p>
議事3②	こどものむし歯予防の推進に向けた協議(フッ化物洗口)について	審議：済
	主な意見	<p>(1)小学校のフッ化物洗口について、学年拡大時の課題を整理するために、令和7年度は3年生が1クラスの小規模校で3年生も一部実施することに決定したことを報告した。</p> <p>【ご意見1】 3年生が1クラスのところでの検証なので、もっと大きい学校で検証したほうが課題は見えてくるのではないだろうか。</p> <p>【事務局】 学校には学校の事情があり、先生方もとても忙しい。取り掛かりがどんな方法にしても始めてみないと分からない。先生方がお忙しいことを理解した上で、始められるところから始め、どんな方法なら続けられるかを探るために小規模校からと考えている。人員を増やせばよいのかとなるとそれも難しい。まずはやってみて「小規模校はこの方法でできた」、その後、「2クラス、3クラスの学校に向けてどのように準備をすればよいか、大規模はどうすればよいか」を考えていきたいと思うので、ご理解いただきたい。</p> <p>【ご意見2】 フッ化物はこどもだけでなく大人にも効果がある(根面う蝕など)。また、3年生でフッ化物洗口がないことを残念に思っている子もいる。現場は大変だと思うが、早く全体に広がってほしいと思う。</p>

	<p>(2)保育所等のフッ化物洗口について、実施施設数を増やすための取組として週2回法(450ppm)を今後検討することを報告した。</p> <p>【意見1】 週2回になることで実施しやすくなることは間違いない。ただ、250ppmから450ppmになることのデメリットがあれば、躊躇する施設もあると思う。それに対し専門家から「心配いらない」と説明してほしい。また、フッ化物洗口をやることで結果は確実にしているが、それが実施していない施設に伝わっていない。園長会等で数字をもって説明してもらえれば、取り組む園が増えると思う。回数を減らすことは効果的であると考えている。</p> <p>【事務局】 むし歯が減るという結果を出すのは、1年間(年中児の1年間)の実施では難しい。小学生になったときに「むし歯が増えていない」ということが、結果として数字であらわれてくるのではないかと考えている。 また、450ppmの懸念については、確実に先生方に量をはかっていただいてこどもたちに実施していただくので、事故が起こるといふ心配はない。幼児が使うのは5mLであり、仮に間違えて飲み込んでも為害性はないので、心配する必要はない。</p> <p>【ご意見2】 週5回(250ppm)と週2回(450ppm)があるが、低濃度で頻回のほうがむし歯予防の効果は高いので、選択できるようにしていただきたい。</p> <p>【ご意見3】 幼稚園でもフッ化物洗口を実施している園があるが、まだ広く普及しているとは言えない。回数は少ないほうが先生の負担は少ない。週5回となると時間をとられるのでやめておこうかなと思う園もあると思う。幼稚園では遊びを通して教育しており、教育のほうに時間を確保したいというのがある。回数を減らすことで導入しやすくなる可能性はあるが、頻回にしたほうが効果があるということで、各園としても悩むところかもしれない。</p>
--	---

歯っぴー39チャレンジ 1

歯みがき習慣をつけましょう

下の前歯が生えてきたら

☆こども用歯ブラシを用意しましょう



保護者の見守りの中で自由にしゃぶらせ、歯ブラシの感触に慣れさせましょう。

事故防止のため、歯ブラシを持ったこどもから目を離さないように！！

上の前歯が生えたら

☆仕上げ用の歯ブラシを用意しましょう



上の前歯が3mmほど生えたら
1日1回は仕上げみがきをしましょう。

仕上げみがきの方法



歯ブラシは鉛筆を持つように。



日本小児歯科学会HPより

上唇の内側にあるすじ(上唇小帯)に歯ブラシが当たると痛いので気をつけましょう。

寝かせみがきをしましょう。



出典：(株)コムネット

仕上げみがきの
詳しい方法はこちら⇒



歯っぴー39チャレンジ 2

むし歯菌をうつさないで

3歳までが特に重要



むし歯菌は1歳～3歳頃
の間に家族などの唾液から感染します

こどもに関わる家族が
ご自身の口腔内を清潔に
保ちましょう



家族みんなかかりつけの
歯科医院で定期的なおお
のケアをしましょう♪

歯っぴー39チャレンジ 3

糖分の摂取回数を控えめに

水分補給は水や麦茶でOK!

哺乳瓶で甘味飲料を与えると
むし歯になりやすいです



体に良いと思って与えがちな飲み物の中にもたくさんの糖分が含まれます

コップ一杯(200mL)の中の糖分
イオン飲料 ⇒ 約大さじ1杯
リンゴジュース ⇒ 約大さじ2杯
乳酸菌飲料 ⇒ 約大さじ3杯



おやつは時間と量を決めて

口の中に糖分を含んだ食べ物や飲み物が入る回数が増えると、口の中が酸性の状態が長く続くためむし歯になりやすくなります



おやつは1歳頃から
1日1～2回、
時間と量を決めましょう



仕上げみがき用歯ブラシの選び方

↔ 毛先がまっすぐ



← 全体がまっすぐ

- ★毛はナイロン製のもの
- ★毛の硬さは「ふつう」
- ★1か月に1回は交換

笑顔で楽しく♪
夜寝る前はていねいに!



歯っぴー39チャレンジ 4

フッ化物を利用しましょう

★フッ化物の効果★

- 1 歯の質を強くする
- 2 初期むし歯※を修復する
- 3 むし歯菌の働きを弱くする

※初期むし歯



歯が溶けかかって白濁しているが、まだ穴があいていない状態

★フッ化物の利用方法★

1 フッ化物配合歯磨剤を使う



～歯が生えたら使いましょう～

うがいができない間は ジェルやスプレータイプを、うがいができるようになったらペーストタイプも使うことができます。

うがいは少量の水で1回程度にしましょう。

【フッ化物配合歯磨剤の濃度と使用量】

歯が生えてから2歳		900～1,000ppmF 米粒程度 (1～2mm程度)
3～5歳		900～1,000ppmF グリーンピース程度 (5mm程度)

※6歳以上は1,450～1,500ppmFの歯磨剤を歯ブラシ全体(1.5cm～2cm)使用

2 フッ化物塗布

歯が生えてから14歳頃まで歯科医院で定期的に(年2回以上)塗布すると効果的です。



★無料でフッ化物塗布ができます★



無料でフッ化物塗布ができる「フッ化物塗布券」付きの「歯の健康手帳」を生後8か月頃にお届けしますので、是非ご利用ください。

(塗布券は1歳、2歳、2歳6か月の頃に使えます)

フッ化物塗布をきっかけに、かかりつけ歯科医をもちましょう。口の中の小さな変化にも気づいてもらえます。

3 フッ化物洗口

4歳～14歳頃まで行くと効果的です。保育園や小中学校で行うなど集団向きです。



熊本市が行っている
歯と口腔の健康づくりはこちら⇒



【お問合せ】熊本市健康づくり推進課

☎ 096-328-2145

発行:令和7年9月

今日から始める

こどものむし歯予防

サンキュー

歯っぴー39チャレンジ

～むし歯のない3歳児を9割以上に～

熊本市のこどもは全国的にみてむし歯が多い状況が続いています。このリーフレットを読んで、むし歯ゼロを目指しましょう！！



～守ろう、未来の宝～

けんこう

はじめよう！フッ化物健口

熊本市・健康くまもと21推進会議

部会名	令和7年度健康くまもと21推進会議 がん部会		
開催日時	令和7年9月1日(月) 14:00~15:00	場所	市役所 10 階会議室開催 (ハイブリット開催)
出席委員 (五十音順・敬称略)	大森 久光、永田 智恵子、濱田 泰之、原田 直、福留 隆史、渡辺 猛士、渡邊 信子 (7名)		
議題 1	がん検診のこれまでの取組と今後について		審議 : 済
	主な質疑応答	<p>【質疑 1】 集団健診受診者数が減少している理由は。</p> <p>【応答 1】 個別検診の受診環境が整ってきたこと及び、それに伴い集団健診受診者数が減少傾向のため、令和 5 年度から集団健診の実施回数が減少したことなどが考えられる。新規受診の方は個別検診の割合が多いことから、今後も個別検診が増加していく傾向が続くと考えられる。</p> <p>【質疑 2】 胃がん検診において、バリウム検査よりも内視鏡検査のほうが増えた要因は。</p> <p>【応答 2】 バリウム検査は集団検診で行っており、内視鏡検査は個別検診で行っていることと、内視鏡検査の精度や受けやすさなどが増加の要因と考える。</p> <p>【ご意見 2】 検診受診者の知識が上がったこともあるかと思う。 胃がん検診においては、医学的には内視鏡検査の方が良い。今後の胃がん検診は内視鏡検査になっていくものとする。</p> <p>【質疑 3】 自己負担金以外の部分は市が負担している。比較的手ごろに受診できることも啓発しているのか。</p> <p>【応答 3】 受診費用の負担が少ないことについても、個別受診勧奨に記載し、啓発を行っている。</p> <p>【質疑 4】 子宮頸がん、乳がんというのはデリケートな部分であるため、採血だけで検査ができると良い。熊本市では実施しているか。</p> <p>【応答 4】 熊本市で行っているがん検診は、胃がんリスク検査を除き、国の指針で自治体検診として推奨される検診方法で行っている。子宮頸がん検診は細胞診、乳がん検診はマンモグラフィで行っているが、国の指針も今後変わってくるものと考えており、今後の取り組みのご意見として承る。</p> <p>【ご意見 5】 子宮頸がんは唯一予防接種がある。日本は世界で一番接種率が低い。これを払拭するような広報活動を自治体でも行っていただきたい。</p>	

議題 2	関係機関等によるがん予防等対策の取り組みについて	審議 : 済
	主な質疑応答	ご出席委員から各団体の取組状況についてご説明いただいた。質疑無し。
報告 1	熊本市全大腸内視鏡検査の実施について	報告 : 済
	主なご意見	<p>【ご意見 1】 市政だよりも大きく掲載されていた。エビデンスもあるため、ぜひ受けていただきたい。</p> <p>【ご意見 2】 産業医向けにも説明会を開いており、1,000 人を目標に実施していきたい。</p> <p>【ご意見 3】 団体を発行している会報誌やメールマガジン、ホームページ等での広報も可能。広報に協力していく。</p>